第２号

農　場　通　信

農業活動での汗を感動へ　～実習による成就感と達成感～

■秋を感じる風景（システム園芸科）

システム園芸科２年生は、果樹の授業で山梨県の特産品として知られる「枯露柿」の製造を行いました。収穫した甲州百目柿の皮をピーラーで丁寧に剥き、熱湯につけてからヒモを結んで干しました。現在、本館東側にある果樹出荷調整室の前は、たくさんの柿がカーテンの様に吊されています。

草花温室とその周辺では、シクラメンやパンジー、ビオラが咲き、ポインセチアの苞葉も赤く色づいています。秋の深まりとともに色とりどりの花が私たちの目を楽しませてくれます。

■三富演習林での現場実習（森林科学科）

森林科学科は、夏季休業以降、三富演習林地見学、林業支援講習、校外測量実習、デジタルコンパス研修、チェンソーメンテナンス、間伐体験実習などを実施しました。写真は、三富演習林の実習風景です。生徒は、様々な実習をとおして、木材の知識と技術を学び森林・林業へ興味・関心を深めています。

また、３年生課題研究では学科の特色であるデュアルシステム（長期就業体験学習）に６名の生徒が参加し、そのうち２名の生徒が森林・林業事業体に進路決定しました。

■　土木現場の声に応えて（環境土木科）

環境土木科は県建設業協会を通して、県内土木建設業のインターンシップを実施しています。これまで、中部横断道の工事、道路補修工事、上水道工事など、様々な現場見学や実習を行い、実際に土木建設業に働いている方々の声を聞きました。多くの言われたのは、「資格の重要性」でした。そこで、今年度から２年生が多くの資格取得に受験できるようにしました。２級土木施工管理検定の取得の必要性は、現場の方々からの声であったので、生徒はインターンシップ終了後、進路実現のためと捉えて受験勉強に励んでいます。

インターンシップで大きく成長し、将来の夢と仕事を具体化した生徒も多く、今後の進路実現に向けて大きな効果があったと思います。

■樹木の管理に汗を流す（造園緑地科）

学園祭及び収穫感謝祭に向けて、造園緑地科の生徒・職員全員で校内の主な庭園の樹木の維持管理や環境整備に取り組んでいます。今年は、フランス式庭園の中央にある噴水の掃除を１～３年生が協力して行いました。また、先月は、正門からフランス式庭園まで続く道路沿いに植栽されているプラタナスの枝下ろし実習を行いました。造園の世界では、冬を迎えるこの時期から本格的に樹木の剪定実習が行われます。

また、全国造園デザインコンクールの応募に向けて、課題に取り掛かり始めました。本学科は、このコンクールに２年連続、全国１位に輝いています。造園計画の授業で取り組んでいる課題であり先輩方が築いてきた実績に続くためにも、これからの数ヶ月間はこの課題に真剣に取り組みたいと思います。

■恒例のピーチネクターづくり（食品科学科）

夏季休業中の様々な活動を紹介します。１・２年生は７月末の２日間、毎年恒例の「ピーチネクター製造実習」を行いました。南アルプス市産白桃 320kg を除核、剥皮、破砕、裏ごし、調合、脱気等の工程により 360ℓ のすっきりとした甘味の美味しいネクターを製造しました。これを缶に詰めて収穫祭で販売します。また、２年生は各自希望する事業所で３日間インターンシップを行い、進路選択の参考にしました。８月には連携事業を行っている山梨学院短期大学食物栄養科の先生と本校 OB より、焼菓子講習を希望者に教えていただきました。３年生は会社見学やオープンキャンパスに積極的に参加し、進路実現に向けての準備を進めています。

■農鑑は最優秀３名・優秀６名、平板測量は最優秀（農業クラブ）

夏季休業中に山梨県連競技の農業鑑定と平板測量、そして 13 年ぶりに本県で開催された第 69 回関東地区学校農業クラブ連盟大会（山梨大会）が開催され、多くの生徒（クラブ員）が選手あるいは運営係として活躍しました。選手は農業鑑定に全学科 77 名、平板測量競技に２年環境土木科１チーム３名、関東大会に意見発表１名(3G)、プロジェクト発表６名(3S)が出場し、日頃の学習成果を発揮しました。

結果、農鑑は最優秀３名・優秀６名、平板測量は最優秀、関東大会は全員が優秀賞を獲得しました。また地域交流活動として 10 月 20 日に本校で芋煮会を開催し、役員が育てたやはたいもを地域の高齢者の方と一緒に調理・会食して楽しい時間を過ごしました。